

4年目を迎えた協働事業

八菅山いこいの森あおぞら博物館の運営

愛川町・サークル愛川自然観察会協働事業

サークル愛川自然観察会から愛川町に提案し、公共性が高い等の審査評価を得て、愛川町との協働事業を3年間が進めてきました。この制度の提案期間は3年間ですが、町からは引き続き年度においても協働事業として進めて欲しいとの提案もあって本年度も継続することになりました。具体的な事業内容は次の3点です。

- ① トンボ池に生息する外来種や八菅大沢水系の生態系を歪めている生物種を駆除することの必要性を啓発し、水辺環境の本来あるべき姿への復元を図る。
- ② あおぞら博物館内の掲示物の更新を通して、愛川町域の自然に関する情報発信基地として、季節ごとの自然誌情報の展示や掲示をする。
- ③ 自然環境保全時域や県指定天然記念物の社叢林等の利用形態の一つとして、町民等を対象にした季節ごとの自然観察会を行う。

なお、3年間の実績としては、1、外来種の生態系に及ぼす影響や駆除の必要性を訴えた看板の制作、2、あおぞら館内部の模様替えと四季の自然情報等の発信、3、四季の自然観察会の開催(年間4回)、4、「いこいの森の生きもの」

「いこいの森の自然観察路」のリーフレットの制作、5、トンボ池他の生きもの調査、等があります。

「人と歴史と自然とが触れ合う」という初期の目的や理念に立ち返って、八菅山地域の潜在的な自然環境や生物多様性に富んだ生態系の復元と保全を図るとともに、啓発や利用のための情報発信の更なる充実を図っていきたく考えます。ご協力をお願いいたします。

活動報告

2016.4~2016.7

第101回観察会兼八菅山いこいの森春の自然観察会(愛川町との協働事業) 4月23日(土) テーマ;春の自然観察路を歩こう! 参加者17名

サークル愛川自然観察会定期総会 4月23日(土)
場所:古民家山十郎 事業・会計報告、事業計画他
あいかわ公園4月の自然観察ガイド 4月24日(日)
テーマ;フジと春の野鳥を見に行こう!参加者10名

第102回観察会 5月7日(土) 場所:三増牛松山周辺
テーマ;ラン科植物を見に行こう! 参加者:14名
あいかわ公園5月の自然観察ガイド 5月15日(日)

テーマ;ジャケツイバラを見に行こう! 参加者2名
サポートセンター登録団体報告会 5月28日(土)
場所;愛川町サポートセンター 報告内容;「いこいの森あおぞら博物館の活用事業」。

第103回観察会 6月23日(木) 場所:田代運動公園付近
テーマ;ゲンジボタルの観察! 参加者:7名

あいかわ公園6月の自然観察ガイド 6月26日(日)

テーマ;虫眼鏡の世界をのぞいてみよう! 参加12名
あいかわ公園7月の自然観察ガイド 7月24日(日)

テーマ;樹液に集まる昆虫を観察しよう! 参加15名
八菅山いこいの森夏の自然観察会(愛川町との協働事業)
7月30日(土) テーマ;夏の自然観察路を歩こう!参加者11名

第104回観察会(愛川町郷土資料館と共催)7月30日(土)
テーマ;夜の樹液に集まる昆虫の観察 参加者35名

乗鞍高原植物観察ツアーに参加

サークルからは9名が参加

厚木植物会主催の高山植物観察会が8月3、4日に行われました。サークル愛川自然観察会からは9名の会員が参加しました。

両日とも晴天に恵まれ、澄んだ空気と真っ青な空のもと、1日目は北アルプス乗鞍岳山麓一の瀬園地自然散策コースを歩きました。厚木愛甲では見かけなくなった植物をはじめ数多くの花に出会いました。

2日目は標高2700m前後の乗鞍畳平周辺コースと、標高3026mの山頂剣ヶ峰をめざすコースの二手に分かれ、夏の高山をたっぷりと満喫してきました。周囲は一面のお花畑で、次々に出現する高山植物に足を止め、時間の経つのも忘れるほどでした。風衝地に咲くコマクサが印象的でした。



見どころスポット

その12:「仏果山」

尾根の北側は愛川町、南側は清川村で境界線となっています。両地区は昔から人の行き来が盛んでしたが、谷筋は急峻な中津溪谷に阻まれているため、仏果山西寄りの「宮ヶ瀬越」か、南寄りの「半原越」と呼ばれる難渋な山道によって行き来が行われていました。また、この山地一帯は山岳修験の聖地で、山伏の行きかう修行道でもありまました。周辺にはこうした歴史に云われを持つ地名も多くあります。

近年では、首都圏からの日帰り登山コースとして人気があり、また「関東ふれあいの道」にもなっていて、休日には大勢のハイカーで賑わいを見せています。

仏果山山頂(747m)から南東に向かう尾根道のうち標高700m前後の0.5kmの区間は岩場が続き、起伏が激しい上に両側が急傾斜で狭く、ハイカーの交差時には遠くから道を譲り合う程です。急斜面を吹き上げる風は強く風衝地特有の背の低い樹形となっているところもあります。植物にとっては厳しい環境にもかかわらず、長い期間をかけてこの土地に適応して来たものも多く、周辺には見られないオオバマンサク、ザイフリボク、シナノキ、イヌブナ、アズキナシ、オオウラジロノキ、ツルキンバイ等の植物もあり、多様な自然の残る場所となっています



・身近な自然・

NO9:「ジカキムシからのメッセージ」

何て書いてあるか人には読めないアルファベットの筆記体文字。文の中身は自然からのメッセージであろうが、いったい誰が何の目的で書いたものか、様々な種類の葉っぱで見ることができる。

どのようにして書かれたものか細かく観察してみると、この文字の正体が推察できる。

一般的には「字書き虫」とか「絵描き虫」と言われているが、ハモグリバエやハモグリガの仲間の小さな幼虫が葉っぱの内部を食べ進み、その食べた跡が葉の表面に浮き出た模様である。



よく見ると小さな出発点があって、ここに卵が産みつけられ、葉の組織を食い進むにつれて幼虫が成長して食べ跡の幅が広がっていくのが分かる。また、葉を透かして見ると終点にはさなぎの姿があるときがある。ジカキムシはやがて羽化すると葉の組織から抜け出し飛んでいく。

写真はフタリシズカと言う植物に残されたジカキムシの食痕で、バラや柑橘類、エンドウ、キュウリ、トマトなどの身近な植物の葉に寄生する種類もあり、農家にとっては駆除の難しい害虫として嫌われている。ジカキムシは生物界の多様性の中で、環境の変化や外敵から身を守ることで、食物が保障された「字書き虫」という生き方を身に付けてきたものである。

サークルからのお知らせ

- 1、10月29日(土)本会と厚木植物会合同での交流会が開催されます。場所は山口ガーデンで、農作物の収穫体験や採れた食材を使った田舎料理づくりなどを予定しています。普段の観察会に参加できない会員の方も、この機会にぜひ参加していただきたいと思います。
- 2、身近での発見や観察記録などを本通信やホームページへの投稿をお願いいたします。手紙、電話、ファクス、メールでも結構です。できれば写真も添えていただければ幸いです。写真だけの記録でもOKです。
- 3、サークルからのお知らせは可能な限りメールでお伝えすることになっています。メールアドレスをお持ちの方は代表までお知らせください。なお、不定期でのお知らせになりますので、時々メールボックスをご覧いただき、受信をご確認ください。サークル愛川自然観察会のホームページでも同じ内容が確認できますので、こちらも時々覗いていただきたいと思います。

サークル愛川自然観察会通信 愛川の自然

NO26号 2016-8-30 発行

E-mail: yalmalgu0chi4@ksh.biglobe.ne.jp

<http://www7b.biglobe.ne.jp/~aikawashizenkansatu/>

編集人:山口勇一 Tel・Fax:046-281-1891